

確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ **学校力向上プラン【学校評価書】**

中学校区におけるめざす子ども像 難しい課題でも、創意工夫しながら解決し、挑戦しつづける子										堺市立向丘小学校 校長 伊藤秀郎			
令和6年度 重点目標 「ゆたかな心 たしかな学び」 めざす子ども像 「自ら考え行動し チャレンジできる子」 ○ゆたかな心の育成 ～全校生活の中で育むもの～ ・いじめが起こらない集団づくり ・ゆたかな人権感覚と道德性の育成 ・自尊感情の醸成・感動する心の醸成（行事・授業を通して） ・自分となかまを大切にする心（挨拶の励行・話し方） ○たしかな学びの育成 ・深まる研修／「貯める」研修 ・GIGAスクール構想のもとでの「どの子にも分かる授業」の実現 ・感動できる授業／山場のある授業 ・基礎学力の育成 ・学習ルールの徹底 ・読書活動の推進 ・指導と評価の一体化 ・形成的評価の重視 ・不登校の減少への方策 ・健やかな体の育成（体力の充実） ・授業公開／校内研修 ・ノートグランプリの充実 ・家庭学習（ムコベン）の充実 ・学びのコンパス・STEAMに向けた研修 ○学校マネジメント力の向上 ・校務分掌力の向上 ・「つながる教師集団」・「教師力」 ・学校職員の働き方改革≠負担軽減 ・ICTを活用した業務 ○地域・家庭との協働 ・参観／懇談をととした連携 ・地域との連携（授業・行事）													
「確かな学び」の現状 基礎学力を大切にし、それらを土台に次の学習を丁寧に積み重ねていくよう、「学校」・「授業」の基本に戻ると同時に、校内研修では、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の視点から授業改善を模索していく。また、学びのコンパス・STEAMに基づく授業の在り方を模索していく。これらのベースとして、本校の今年度の研修計画である「対話」を通した学びを据える。また、ノートグランプリ・ムコベンに取組み、学習の習慣化をめざす。								「豊かな心・健やかな体」の現状 生活リズムを整えたくえて、他者の気持ちにより沿うことができるようにしていく。昨年度に引き続き、刹那的なその場限りの面白さを追い求めるのではなく、仲間と力を合わせて何かを成し遂げる喜びを分かち合える集団にしていける必要がある。そこには正しく意思を伝えること、それを正しく受け止める必要がある。体育授業や体育的行事では、コロナ禍以前の行事に戻っていることを前提に、体を動かす喜びを安全に感じられるようにしていく必要がある。また食育の推進で健やかな体づくりも進めていく。					

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組, ★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～11月) 10月28日記入	達成状況 (年度末)					
								自己評価		学校関係者評価			
確かな学び	教科 学力の 向上	◎対話を重視した「どの子にもわかる授業」で自分の思いや考えを表現し、伝え合う力を育成する。	●基礎的な授業力の向上をはかるとともに PC を効果的に授業で活用する。ノートグラプリを行い、自分の思いや考えを相手に伝えるように表現する力をつける。 理科 (5.6年)、外国語授業 (3・5・6年) 等の専科授業を行い、論理的思考力の伸長と国際理解の深化を図る。	研究授業・研修の内容と実施状況／PCの児童の活用状況。 ノートグランプリの実施状況。	実績と学力調査・学校アンケート	2月	○ 各学年において研究授業をおこない、成果をあげている。ノートグラプリにも引き続き力を入れているほか、幼保小の連携も進めている。						
	学びの 基礎力の 向上	◎「安全な、安心できる環境で」かつ静謐な学習環境のもと、家庭学習（ムコベン）の習慣化、読書活動などにより自ら学ぶ児童の育成	●正しい姿勢で学習に向かうことができる。 ●「学びのコンパス」・「STEAM」に向けた研修の取組 ●★学習規律を確立し、家庭学習の習慣化を図り、主体的に学習する力を身につける。 読書活動（朝の読書、図書の時間）の充実と学校図書館の活用	研修実施、観察／学力調査や児童アンケートで肯定的評価 90% 学力調査や学校アンケートなどで肯定的評価 90% 学力調査などのアンケート	学力調査・学校アンケート 学力調査・学校アンケート	2月 2月 2月	○ 年度当初に「学習のルール」を示したほか、「学びのコンパス」等も研修をおこなっている。 ○ 「ムコベン」では、多くの児童が自主学習に取り組んでいる。 ○ 地域の絵本隊の皆様やPTA 図書委員さんの力を借りて図書の普及に努めている。		全国学力調査の結果では、児童は家庭学習に比較的热心である（1時間以上2時間より少ないという児童の割合が多い）。 また、「放課後や週末に」読書や学習をしている児童の割合が比較的高い（56.8%） 同調査での、自尊感情の肯定率は87.6%。				
		実践 力の 向上	◎学校・地域の行事等で主体的に活動する児童の育成	クラブ、委員会活動、校外学習で子どもの居場所と出番を確保する。また、地域の方々から学ぶ機会をつくり、地域の方々との交流を深める。	観察／学力調査・学校アンケート（児童・保護者対象）で肯定的評価 90%	学力調査・学校アンケートなど	2月	○ 計画どおりに地域の方をゲストティーチャーとしてお招きした学習をすすめているほか、クラブや委員会活動、行事等で子どもの「居場所と出番」をつくっている。					
豊かな心 健やかな体		自尊感情の育成 生活習慣の確立と	◎児童が安心できる居場所となる集団の形成	●道德や人権教育に取り組み、豊かな人権感覚を育む。いじめが起こらない集団づくりをおこなう。	実施状況・指導状況及びアンケートなどで肯定的評価 90%	学力調査・学校アンケート	2月	○ 道德の研究授業や日常の授業を各クラスで実施している。			全国学力調査では、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」という回答が100%になっている。また、同調査では、「情報機器を家の人と約束したことを守って使っている」の肯定的回答は75.3%。		
	◎あいさつができ、場に応じた適切な言葉遣いができる児童		あいさつの励行、話し方などに気を付けるとともに、情報機器の安全な使用を啓発する。	観察／学力調査・学校アンケートなどで肯定的評価 90%	学力調査・学校アンケート	2月	○ 児童会の挨拶運動でグラフを作成して可視化するなどの取組をおこなっている。						
	◎体力の向上 ◎安全に対する意識向上		●専門機関と連携し自分の心を守る方法を知る。災害について学び、学校や家庭でのいのちを守る教育をおこなう。	取組の状況とアンケート／生徒指導状況など	取組の検証・アンケートなど	2月	○ 避難訓練、CAPの学習などを確実におこなうほか、必要に応じて専門機関との連携を図っている。						
独自の課題	進 教育の推 進	◎中学校区のランドデザインに対応した小中一貫教育の実践	★「難しい課題でも、創意工夫しながら解決し、挑戦し続ける子」を育むために3校の交流をすすめ、情報共有と課題への取り組みをすすめる。	取組状況と回数	実施報告	2月	○ 学校単位、PTA 単位で3校の交流を進め、3校合同の研修の実施や健全育成協議会としての機能の発揮を進めている。						
	推進	◎地域を愛する健全な子どもを家庭・地域とともに育てる。	●地域人材の活用（クラブでの指導・読み聞かせ・図書館ボランティア・守屋池授業等）し、地域にねぎした、学校教育をおこなう。	取組状況と児童の取組	実施報告	2月	○ 各学年での地域の皆様による授業や、安全の見守り、読書活動のの推進（読み聞かせや図書館運営）をおこなっている。トイレ掃除も地域の方がおこなってくださっている。						
	れた業務	◎児童へのよりよい教育をめざし、教職員がバランスがとれた業務を追究する。	学校で働く職員が、職場で安全・安心であること。また、学年や職種を超えて、挨拶や声掛けなどをおこない、早く帰宅できるようにしていく。	実施状況とアンケート	取組の検証と学校アンケートなど	2月	○ 勤務時間外在校等時間は、減少している。						
校長より (年度末)								学校関係者評価者から (年度末)					